

調布市基本構想策定推進市民会議中間報告会の開催結果について

標記の件について、下記のとおり基本構想策定に向けた中間報告会を開催しました。当日は、市民会議の3つの分科会から、分野ごとに思い描いたまちの将来像や、実現に向けた中間とりまとめの内容について報告し、参加された市民の皆さんとの意見交換が行われましたので、主な意見の概要をお知らせします。

- 1 開催日時 令和4年3月27日（日）午後2時～午後5時
- 2 開催場所 オンライン（ZOOM）
- 3 参加人数 48人（一般来場者15人，市民会議委員33人）

※このほか、青少年ステーションCAPS及びしばさき彩ステーションをサテライト会場とし、各施設利用の参加者あり

4 主な意見交換等の概要

(1)分科会1【福祉(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉)，学校教育・青少年健全育成，子ども・子育て支援】

【検討テーマ① 福祉(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉)】

- しばさき彩ステーションを利用しているが、高次脳機能障害となった方は、機能回復のため、同施設での人との関わりが重要であると感じている。また、パートナーに先立たれた方も、同施設での活動を通じてその喪失感から回復し、以前のよような活発な自分に戻ったという。
- 同施設は、高齢者・認知症・障害者などの特定の方に向けた施設ではなく、多様な人・多様な世代が集まる居場所であり、「みんなが来られるプラットフォーム」として機能することを目指している。高齢者・認知症・障害者などのサービスを受ける人だけではなく、そうした人たちへのサービスを提供することに意義を見出す人たちの拠点にもなっている。そのため、色々な活動の拠点となり、地域でのつながりづくりにもつながっている。
- 彩ステーションでの取組には決まったものではなく、それぞれが考えたプログラムを持ち寄って展開することができる。これらの取組は自助の中から発生したものであり、行政と地域が一体となって支援していくことが必要である。
- 彩ステーションのような居場所が歩いて行ける場所にもっと増えると良い。地域包括ケアセンターの中に常設することも検討してはどうか。
- 誰ひとり取り残さないためには、多世代の居場所をつくる必要がある。それが高齢者の支援にもつながる。

【検討テーマ② 学校教育・青少年健全育成】

- 調布市青少年ステーションCAPSは、高校卒業後、ボランティアのスタッフとして来館することは可能だが、一般利用はできない。
- コロナ禍でも、少しでも若い世代同士がふれ合える場所があるのは素晴らしいと思う。より増やして行ってほしい。家族から離れた場所でも自分らしくいられる場所、だれからも否定されない居場所が必要である。
- 子どもの想いを尊重するためには、子どもたちの意見を否定しないことが前提条件。子どもたちが伸ばしたいこと、やりたいことの想いに寄り添い、スタッフがサポートしながら、才能を伸ばす、機会を提供することで自己肯定感の醸成につながる可能性がある。
- 低学年の子どもの方が、障害者に対して抵抗が少ないと感じる。そのため、幼少期から多様な人とふれ合う場を設けることで、多様性について抵抗なく教えなくても自然と受け入れるのではないか。
- 現状、学校の様子は地域に伝わっていない。教師のサポートも含めて、学校の問題（いじめ・差別・暴力・不登校等）解決のため、地域やボランティアとの連携・支援が必要であり、コミュニティスクールの創設をきっかけにそうしたことを実

実践してもらいたい。

- 調布市には既に小学校のPTAや健全育成，子ども会，それらのとりまとめとして地区協議会があるが，いずれの関係者もこの市民会議に参加していないことには疑問がある。今後は，これらの組織の関係者にも参加して検討してもらってはどうか。
- 大人や行政から子どもに押し付けられた将来像のように感じる。子どもたちの意見を取り上げ広めるために，PTAや地区協議会の中に子どもが参加してはどうか。

【検討テーマ③ 子ども・子育て支援】

- 歩いて行けるとところに子育ての相談ができる場があるとよい。
- どんなまちになったらよいかを考える際に，例えば子育て世代が子どもを産み育てたいと思われるようなまちにしたい。
- 子育て世帯はフットワークが重く，時間がない，相談のハードルも高いので，児童館等で相談できるとよいのではないか。高齢者の包括支援センターのように，子育て支援の包括的な支援が提供される場が歩いて行けるところにあるとよいと思う。
- さらに，市役所前・駅前等の利便性の高い場所にも，母親同士，地域の人同士が集まり交流できる場所があるとよい。
- 以前住んでいた自治体では，ボランティアを100時間呼べるというサービスがあり大変助かった。そのため，気軽に相談できる場所や，手伝いなどに来てくれるサービス（ファミリーサポート，シルバー人材センター）などを手厚くするとよいのではないか。
- それにより，地域への愛着がわき，子どもが大人になっても戻って来るまちになるのではないか。また，これらのサービスが分かりやすく発信されると良いと思う。

(2)分科会2【地域コミュニティ・LGBTQ・多文化共生，スポーツ・レクリエーション，生涯学習，芸術・歴史文化・平和，農業・地域経済・観光】

【検討テーマ① 地域コミュニティ・LGBTQ・多文化共生】

- 子育てしていると地域とのつながりがある。児童館も近くにあるが，小さな子どもと高齢者向けのイベントが多い。参加者が特定されてしまうと，他の人が参加しづらい。
- 30・40代で子育てしていない人が参加できるようなコミュニティが少ないように感じる。
- 同質の人が集まるコミュニティではなく，異質な人が集まるコミュニティがたくさんあり，個人同士が認め合える場があるとよい。
- 普通の会社員であるが，コミュニティにどのように参加したらよいか，どのように情報を入手して，どのように参加したらよいかと考えている人は多いように思う。
- 子育て中であるが，カテゴライズされたグループに参加することが苦手である。これまでのつながりにおいて，名前もよく知らないが犬の散歩を通じて知り合った人との関係が心地よかった。「ゆるやかにつながれる」という表現がとてもよいと思った。
- バレエサークルを運営しており，外国人の方が参加されている。生徒はすべて同じように教えているが，情報伝達の際には，情報が伝わるように配慮している。
- 文化や国籍だけではなく，個性として接していくことが，グローバル社会，ノーマライズ社会において必要であると感じた。
- マイノリティの方の困りごとに寄り添って代弁できることが大事であると思う。一緒に寄り添い，仲間になっていくことが大事である。
- コロナ禍でオンラインが当たり前になっており，デジタル化が加速した。オンライン化により，人と人とのつながりの重要性を再認識している。
- 縦割り行政の弊害はどこでも発生している。領域を無くすことで，人がつながる機会の創出にもつながる。
- 子どもたちが和太鼓をしたいということで学べるところを探したがなかなか見つから

らなかった。情報が更新されておらず、デジタル化がすべてではないが、情報の整理は必要である。

- 自治会・町内会の世話役をしているが、役員の高齢化が進み、何のためにやるのか、何をやるのか、目的、ミッションがないこと、示せていないことが問題である。
- 個人の趣味も1つのチャレンジであると考え、コミュニティに参加するまでには至っておらず、どのようなきっかけがあれば参加できるのか。
- コロナ禍で新たな趣味を見つけようとした時、一歩踏み出す勇気がなかったため、気軽につながれるとよい。
- サークル活動であっても活動の助成金の対象となるとよい。
- サークルに参加するにはハードルが高い。選択肢があり、情報がオープンになっていないと、新しいコミュニティに参加するのは難しい。

【検討テーマ③ 生涯学習】

- 地域で活動する中で、生涯学習で学んだことを伝えることが大事だと考え、活動している。例えば、社会教育課は社会教育を扱い、学校教育は社会教育課の領域ではないというように、社会教育、家庭教育、学校教育の領域で横のつながりがないことが問題であると考え。
- 学習支援を行う際に、デジタル書籍の活用など著作権の縛りがあり、やりづらさを感じている。

【検討テーマ⑤ 農業・地域経済・観光】

- コロナ禍やウクライナ情勢の影響で原油高など様々な影響が出てきており、中小企業の対策に関心がある。
- コロナが収束した後に、多くの人に調布に来てもらえるよう、人を惹きつける魅力があるとよい。
- 家の前から見える多摩川と富士山の風景は好きである。
- チャレンジするためには、失敗した時のセーフティーネットがあり、何度でもチャレンジできる環境が必要だと考える。

(3)分科会3【交通環境・道路整備、駅周辺・住宅・景観、緑・農地・水辺・公園、脱炭素・ごみ処理・公害防止】

【検討テーマ① 交通環境・道路整備】

- 最近、自転車利用者のマナーが悪い。
- 市内の主要なスポット間を結ぶアクセスが不足している。
- 自動車だけでなく、歩行者、自転車、ベビーカー等々、みんなが楽しく移動できる交通環境づくりが必要である。

【検討テーマ② 駅周辺・住宅・景観】

- 自治会の世話役を務めている。近年、空き家が増えており、その活用方法を考えていくべきである。また、空き家の活用方法については、まちづくりなど様々な観点から検討に取り組んでほしい。
- 空き家対策や高齢者に配慮した取組をもっと掘り下げてほしい。
- 介護保険サービスは介護が必要になった人に対するサービスであり、その前段階で「不安感はあるがまだ一人で日常生活はまかなえる」高齢者が、自身の自立と相互扶助により不安なく過ごせる高齢者住宅構想を考えるべきではないかと思う。
- 高齢者＝福祉と考えず、まちづくり《住宅整備》の一環として考えたいです。
- 健康な高齢者の居場所づくりも重要な要素になるのではないか。
- 近年の調布市の人口増加は、京王電鉄の取組の影響が非常に大きい。このような状況を踏まえ、京王電鉄とも連携しながら駅前広場の活用について、もっと議論すべきである。
- 調布ならではの個性的なまちづくりについて、もっと斬新なアイデアを出してほしい。

【検討テーマ③ 緑・農地・水辺・公園】

- 良好な環境を保全するための活動に対し、より多くの市民に興味をもってもらう活動に加わってもらうことも重要だと考えている。
- 環境に対し、市民に興味をもってもらうための機会を増やす必要があるのではないか。そのためには、地域コミュニティや学校教育等との横断的な取組が必要ではないか。
- 緑を保全するのか、それとも利便性を追求するのか、二者択一で議論するのではなく、いかにして共生を図っていくのかという視点が大切である。
- 市民一人ひとりがまちのセンサーとなり、お互いにコミュニケーションを取り合うことで、人にも環境にもやさしいまちづくりにつながるのではないか。
- 年々、自然が減少している。自然を保全するためには、自助の力だけでは限界がある。そのため、市民と行政が一体となって自然の保全・活用に取り組む必要がある。
- 地域の中で子どもたちが農業を体験できるような場所があるとよい。
- よく自転車に乗っているが、市内には子どもと行きたい場所、子どもと遊べる場所が限られている。もっと身近に親子で遊びに行ける場所があるとよい。
- 世田谷区など近隣の自治体には、子どもが「遊び」をつくる遊び場であるプレーパークがある。調布市内にもプレーパークがあるとよい。

【検討テーマ④ 脱炭素・ごみ処理・公害防止】

- 今後、脱炭素社会の実現は、世界規模で対応が必要な取組であると認識している。
- 脱炭素社会の実現は、世界的にも大きなテーマである。調布市でも 2050 年ゼロカーボンシティ宣言を行い、その実現に向けた実行計画を策定している。調布市が他自治体の手本となるよう、トップランナーを目指してほしいと考えている。
- 具体的にどのようにデジタル技術を活用して脱炭素社会の実現を目指すのかを明らかにしてほしい。
- ごみ処理について、近年、住まいの周辺では分別が徹底されていないケースが散見される。将来を担う子どもたちに良好な環境をどのように残していくのか、大人たちが考えていかなければならない。

【その他】

- 近年、全国的に水害による被害が多発しており、その辺りの対策も基本構想に取り入れてほしい。
- 行政だけでは解決が難しい課題の解決には、市民・事業者を含めた「オール調布」で取り組む必要がある。

